



\*\*\*\*\*

### 初春，あけましておめでとうございます。 本年もよろしく願います。

昨年中は、「つくばスタイルフェスタ」のブース及び遊びコーナーへのご協力，つくば市子育て便利帳「子育てのわ」へのご協力，加えて，かるがも・ねっと関係団体のイベントへのご協力いただき，ありがとうございました。お世話になりました。

一昨年より続けてきました，つくば市における子育て支援に関わる諸機関・団体・ボランティアのネットワークづくり。子育て支援に関わるもの同士がお互いの活動を知るということを目的とした1年目から，昨年は，外に「かるがも・ねっと」の存在をアピールするということを目的に，活動をしてきました。今年は，「つくば市子育て支援ネットワークかるがも・ねっと」（任意団体）として正式に発足していく方針です。引き続き，皆様のご協力のほど，よろしくお願い致します。

世話人会一同

#### < 昨年に実施した主な活動 >

- ☆学習会：児童館における子育て支援（1月），保健センターによる子育て支援（2月）  
子育てサークルの活動（5月），一時預かりの支援（6月），家庭児童相談室の支援（11月），障害をもつ子どもの支援（12月）・・・計6回開催  
\*新座子育てネットワークへの視察研修（3月）
  - ☆ニュースレター：第5号～第10号まで発行（毎月1回から，隔月に1回に変更）
  - ☆「子育て支援を考える 2005」を実施（7月）
  - ☆「つくばスタイルフェスタ」への参加：ブース展示及び遊びコーナー  
（10月1日～30日の1ヶ月間）
  - ☆つくば市子育て便利帳「子育てのわ」の作成（今年の1月に完成予定）
  - ☆市内の子育てサークル及び子育て支援団体の一覧の作成
  - ☆世話人会：毎月1回実施。
- 以上。現在，ニュースレター等を送付しているメンバーは，約70団体・人です。

#### ＊ ＊ 「かるがも・ねっと」の正式発足に向けて ＊ ＊

今年の3月にて，かるがも・ねっとの設立準備に関わる資金の補助を受けていた2つの事業が終了します。ひとつは「子育て広場事業」，もうひとつは「筑波大学社会貢献プロジェクト」です。これらの事業終了に伴い，正式に「かるがも・ねっと」を発足することとなりました。現在，会則及び会の運営方針（会費を含め）を，世話人会で下案作りを行っています。1月の学習会にて，それらを検討していく予定です。

また，3月4日（土）に，両者の事業を実施していた「つくば子育て広場」と「筑波大学共生教育学（教育社会学）研究室」との合同シンポジウムを開き，「かるがも・ねっと」の正式発足会をおこないます。当日のご参加とご協力をお願いします。

# 「障害のある子どもたちの子育て支援」についての紹介

## 第9回「かるがも・ねっと」学習会より

12月5日の学習会では、つくば市内で活動している「NPO法人ポランのひろば」の小菌江さん、また、茨城県内で活動している「茨城LD等発達障害親の会 星の子」の野本さんをお招きして、「障害をもつ子どもたちの子育て支援」についてのお話をお伺いしました。障害をもつ子どもたちとの関わりや支援について、以前から気にかけていた方も多かったようで、活発な意見交換が行われました。

そこで今回のニュースレターでは、障害をもつ子どもたちの子育て支援について、どのような団体が活動をしているのか、またそこではどのような課題が生じているのかについてご紹介します。その上で、「障害」に対する理解や、障害をもつ子どもたちへの支援について話し合われた内容について、紹介していきます。

### 1. 「NPO法人ポランのひろば」の活動

「ポランのひろば」は、知的障害をもつ小学生から高校生までの放課後クラブ、また、中学校卒業後の青年達の就労や生活に対する支援活動を行う団体です。1991年に、つくば市内の知的障害をもった子どもの親たちが集まって立ち上げられました。今年で、15年になります。2003年には、NPO法人となり、現在では、つくば市の事業も入れて、①小学生の放課後クラブ、②中学生・高校生の放課後クラブ、③青年・成人の作業所、④障害者デイ・サービス事業の4つの活動を行っています。

「ポランのひろば」を立ち上げた当時、障害を持った子どもたちの保育は、親が家庭の中でするものという考えが今以上に強かったです。それでも、障害を持った子どもを保育に預け、親たち自身が社会に出て、働いていきたかった。障害のある子どもがいるからといって、家庭の中に閉じこもるのではなく、「ポラン」を創設して、共同保育で協力し合いながら、親自身が社会に出て、仕事をしていけるよう頑張ってきました。

それによって、良かったことは、子どもたちが親から離れて、町の中で知り合いをつくっていかれることです。ポランの子どもたちは、放課後クラブを通じて、指導員と共に、公園や児童館など、つくばの町のさまざまなところで過ごしています。町を転々と指導員に連れられて、歩いていることで、一般の市民の方たちや他の子どもたちと知り合いになっていきます。なので、親がお休みの日に、子どもと公園やお買い物に行くと、市民や他の子どもたちの方から「〇〇ちゃん、今日も来たの?」「〇〇ちゃん、こんにちは」と声をかけてもらえます。こうやって、人と人をつなぐネットワークが生まれてきているように感じます。こうしたつながりは、親子を支えてくれる力になっています。これは、障害がある・ないにかかわらずどの家庭でも、同じことがいえるのではないのでしょうか。

今の若い親たちを見ていますと、子どもたちが障害を持っている、持っていないにかかわらず、子育てをする際に孤立してしまっている状況があると思います。そうした状況からすくいあげていくのに、共同保育の場があると良いと思います。私が100%育てるよりも、うちの子を外に出したとき、私以上にすばらしい人がいて、いろいろなものを与えてくれる。よそのお子さんの面倒も見られるけれども、うちの子どもも助けてもらえる。共同保育のように、お互いに育て合う環境があることで、家の中で閉じこまらず、親も子どもも、周りからたくさんの力をわけてもらえるようになると思います。ポランでは、そういう活動をしてきました。

ただ、最近、活動の中で難しいと感じるのは、今のお母さん方にそうした共同保育の楽しさを伝えることです。今の若い人たちは、みんなで協働して力を出し合うことが苦手なように感じられます。共同保育の場でも、他の人に迷惑がかかることや自分がお行儀良くしないといけないことにつらさを感じ、それぞれ個々にやった方が良いと考えてしまうようです。そういうお母さん方に、どうやったら共同保育や集団保育の楽しさがわかってもらえるかということが課題です。

また、皆さんにお願いしたいのは、障害を持った子どもやその親に対してどのようにサポートするのかということもありますが、それ以上に、障害を持っている子どもの兄弟姉妹に対するサポートです。一番忘れられてしまうのが、その兄弟姉妹です。実際に、私は、障害のある次女の子育てに翻弄されていました。そうしたとき、長女は、親以外の多くの人たちに支えられ、育てていただき、助かりました。

## 2. 「茨城 LD 等発達障害親の会 星の子」の活動

「星の子」は、茨城県内に住む LD や ADHD 等の発達障害児の親で作る団体です。現在、会員数は、小中学校グループの「すばる」が 38 名、高校生以上のグループ「ういず」が 40 名です。活動の内容としては、レクレーションや勉強会、相談会などを行っています。他にも、障害をもつ子どもたちに対する特別支援教育の体制が不十分であることから、行政に対するさまざまな要望書を出しています。こうした地道な活動を受けて、行政が動き出しているというのが現実だと思います。

LD の子どもたちはコミュニケーションが苦手なため、いじめにあって不登校になる子がいます。反対に、ADHD の子どもたちには友達をいじめてしまうこともあります。このように、会に参加している親の悩みはさまざまです。特に、思春期は、そうした問題により、一番大変な時期だと思います。行政には、学校生活の鍵となる先生に対する働きかけや、学校に行けない子どもたちのための場の用意をしてもらえるとありがたいです。

### まめ知識 - LD って何！ ADHD って！ -

#### ♥ LD とは

LD とは、英語の **Learning Disabilities**（直訳すると学習障害）の頭文字の「L」と「D」をとった言葉です。知的な発達や身体機能に遅れはみられませんが、学習に必要な基礎的な部分である「聞く」「読む」「書く」「計算する」等の能力の習得に困難さをもっています。

#### ♥ ADHD とは

ADHD とは、**Attention-Deficit Hyperactivity Disorder** の頭文字をとった言葉で、注意欠陥・多動性障害のことです。注意の集中ができない、落ち着きがない、切れやすいなどを特徴とする障害です。漫画の『ドラえもん』のキャラクターの性格になぞらえて、「のびた・ジャイアン症候群」とも呼ばれています。

## 3. 話し合いからの意見

話し合いの中では、様々な質問や意見が出されました。

### ○ 障害のあるお子さんに対する接し方について

「かるがも・ねっと」に参加されている団体やサークルの活動において、障害のあるお子さんが参加される際に、どのような接し方をしたらよいのかという質問が出ました。それに対して、次のような意見が出されました。

- ・ 障害のあるお子さんがパニックになったときは、その子の思いを外に出すことが必要。周りの人はその子の気持ちが穏やかになるまで、落ち着く居場所をつくり、待つことが大事であると思う。無理にこちらに引きつけるのは難しいため、その子の特質を知って対応してあげることが必要ではないか。難しいところもあるが、気長に付き合うのがいいと思う。
- ・ 障害のある子どもを持つ親との関係も大切。一緒に活動する中で、声をかけたり、話を聞いたり、その人の気持ちを受け止めていくといいのでは。

このように、障害のあるお子さんに接する際には、「障害」ということにこだわらず、まず一人の人間として向き合うことが指摘されました。また、障害のあるお子さんを持つ親と、どう対応したらいいのか、一緒に考えていくことも大切のようです。

#### ○ 受け皿について

障害のある子どもたちの受け皿をどのようにつくっていくのか、ということが議論となりました。

- ・ 現実的に、障害をもつ子どもたちの受け皿ができていない。情緒学級は、各学校にその対象となる子どもが3人、知的学級では5人集まらないと学級ができない。そのため、必要としている子どもが支援を受けられないという現状がある。
- ・ 普通学校か養護学校かという選択や、普通学級か特殊学級かを選択の際の情報が少ないことが問題である。この学校ではこういう教育をしますよという提案や情報がほとんどなく、親の希望だけで選択している現状がある。もっと将来の見通しをもって選択できるような体制が必要ではないか。

このように、受け皿の不足や学校や学級に関する情報の少なさが問題となっているようです。こうした問題では、より多くの人たちが現状を知り、行政側の体制の整備が必要であることを、行政に働きかけていくことも大事です。また、これらの問題を考えていくことは、「障害」のある・なしにかかわらず、子どもが育つのによりよい町として、どのような体制をつくっていくのかということにも関わってくるのではないのでしょうか。

### ♡♡お知らせ♡♡

#### 学習会の開催

「第10回学習会 教育相談を通して子育てを考える」

日時：2006年1月23日（月） 13:30～16:00

場所：桜庁舎4階 第4会議室



#### シンポジウム

「(仮)子育てのわ2006—つどい、つなぐ、つくばの子育て・子育て支援—」

つくば市子育て広場事業及び筑波大学社会貢献プロジェクト成果報告会

単なる成果報告に終わらず、つくば市における今後の子育て・子育て支援を考え・提案していくことを目指して、実施します。

日時：2006年3月4日（土） 13:00～17:00

場所：筑波大学総合研究棟D棟1階

内容：・報告「こんなサークルに出会えてよかった！～サークル同士のつながりに支えられて～」(つくば市子育て広場事業からの報告)

「(仮)つくばスタイルの子育て支援！？—ネットワークづくりの試み」  
(筑波大社会貢献プロジェクトからの報告)

- ・パネルディスカッション
- ・かるがも・ねっと発足会
- ・その他、サークル・団体紹介のポスター・チラシの展示、などを予定。

発行：つくば市子育て支援ネットワーク **かるがも・ねっと**（設立準備委員会）

「かるがも・ねっと」は、つくば市にある子育て支援に関わる機関・団体・サークル、ボランティアのネットワークでつくられています。

発行日：2006年1月5日

編集：丹治恭子・渡辺恵

問い合わせ先：edu\_socio@yahoo.co.jp / FAX：029-853-4829（筑波大学教育社会学研究室）